

【表紙・裏表紙解説】 あいち国文第15号

表紙・裏表紙写真ともに『発句題林藻志保扇』（愛知県立大学長久手キャンパス図書館蔵）。

全一卷。三四丁。刊本。四ツ目綴。寸法、一九・六×

一三・〇センチメートルの中本。題箋部分は跡のみ。

序文・跋文ともになし。内題に「夏の部」とあり、夏に関連する様々な歌題が詠まれている。

初句を詠んだ岱年を初め、六十余名の歌を掲載する。岱年は讃岐国丸亀の人で、京都住の臥鵬門下の俳諧師。

初号、北映。別号、無時庵・三露園・亀耳道人・狸々翁。

彩色された挿絵が複数あり、その中のいくつかには「梅邨」という署名が付されている。「梅邨」と考えると、

「梅村」の号を持つ天保年中の画家、栗原玉堂のことか。

成立年の記述はないが、『俳文学大辞典』によると岱年は寛政十（一七九八）～嘉永五（一八五二）年の人で

あり、前述の栗原玉堂の活躍時期と合わせると、天保（一八三二～一八四五）頃の成立か。

表紙掲載箇所は、周りを薄青で塗ることで光を表現した月と薄墨で描かれた竹の絵と、「五月雨」「藻の花」を歌題とした作品が掲載されている。絵と題が合わないように見えるが、これは絵の前丁に掲載された歌題である。「夏の月」「若竹」を画題として考えると考えられる。また、裏表紙掲載箇所は「藻の花」「田植」を歌題とした作品と、田植をしながら授乳する女の絵に「かたく日の笠のうらてる田植哉 雅琴」「泥あして門まてつ、く田植哉 畚麦」の二首が添えられている。

参考文献：『日本畫家辞典 人名篇』（沢田章 大学堂書

店発行 思文閣発売 一九二七初版 一九七四第三

版）、『俳文学大辞典』（角川書店）、愛知県立大学図

書館貴重書コレクション (<http://opac1.aichi-pu.ac.jp/>

kicho/kohaisyo/index.html)

（文責：熊澤美弓）